「京都を学ぶセミナー洛西編」第２回（開催報告）

2020 年 7 月 21 日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
０７５－７２３－４８３５

２０１８年度から開始した「洛西の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【洛西編】」第２回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日　　時　　2020 年7月２１日（火）１３：３０～１５：００

■ 会　　場　　京都学・歴彩館大ホール

■ 参加者数　　９４名

■ 内　　容　　講　演　　京都府立大学教授　小林　啓治
「地域メディアからみたアジア・太平洋戦争と乙訓地域」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

地域社会がどのように戦時体制に組み込まれていったのかについての研究は史料がことのほか少なく、遅れている。第２回セミナーでは、神足尋常小学校によって刊行された『神足月報』を足がかりとして乙訓地域の戦時体制について講演があった。『神足月報』は学校だけでなく村全体の計画・事業を知らせることを目的としており、小学校長の政治・社会情勢認識を村民に伝達する媒体でもあった。

地域社会の戦時体制は満州事変以降の準備過程を経て、アジア・太平洋戦争への道が踏み固められていった。教育に力を入れていた新神足村は、教育や小学校長を通じたイデオロギー操作をうけやすかった。ここには地域社会が行政村を中心にまとまり、主体的な取り組みを進めていけばいくほど、総力戦体制に深く組み込まれるという構造がみてとれることが報告された。

「地元の戦時中の様子をうかがいしることが出来て大変興味深かった」、「具体的な史料で興味深かった」など参加者からも好評を博した。